

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

A 重油ボイラから都市ガスボイラへの  
更新プロジェクト

排出削減事業者名：ダイワ化成株式会社

排出削減事業共同実施者名：株式会社F Tカーボン

その他関連事業者名：

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	ダイワ化成株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	大宮工場
住所	埼玉県さいたま市見沼区上山口新田 59-1
排出削減事業共同実施者	
排出削減事業 共同実施者名	株式会社 F T カーボン
その他関連事業者	
関連事業者名	

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

A 重油ボイラから都市ガスボイラへの更新プロジェクト

### 2.2 排出削減事業の目的

A 重油ボイラ 4 基を都市ガスボイラ 4 基へ更新する。高効率の都市ガスボイラへ更新し、単位発熱量あたりの CO2 排出量が少ない都市ガスへ燃料転換することで、CO2 排出量を削減する。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

A 重油ボイラ 4 基を都市ガスボイラ 4 基へ更新する。高効率の都市ガスボイラへ更新することで、省エネルギーを図り、CO2 排出量を削減するとともに、単位発熱量あたりの CO2 排出量が少ない都市ガスへ燃料転換することによって、CO2 排出量を削減する

### 2.4 J-クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

変更なし

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

2012年1月3日

#### 3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年4月1日 ～ 2016年4月1日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

#### 4.2 活動量

##### 4.2.1 活動量・原単位

活動量・原単位は採用しない。

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

活動量は採用しない。

#### 4.3 事業の範囲（バウンダリー）

都市ガスボイラ及びボイラから蒸気の供給を受ける設備

## 5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法 に変更ある場 合、) 変更理由
$F_{\text{fuel,PJ}}$	都市ガス使用量	Nm <sup>3</sup>	(2013年度) 292,040 (2014年度以降) 610,547	ガス請求書 (m <sup>3</sup> から Nm <sup>3</sup> への換算係数 0.957、東京ガ ス)	変更なし
$HV_{\text{fuel,PJ}}$	都市ガスの単位発熱量	GJ/Nm <sup>3</sup>	(2013年度) 0.0440 (2014年度以降) 0.0464	J-クレジット制度デフォル ト値	変更なし
$\varepsilon_{\text{PJ}}$	事業実施後都市ガスボ イラ効率	%	88.20 (高位発熱量)	カタログ値	変更なし
$\varepsilon_{\text{BL}}$	事業実施前 A 重油ボイ ラ効率	%	90.25 (高位発熱量)	カタログ値	変更なし
$CF_{\text{fuel,BL}}$	A 重油の単位発熱量あ たりの炭素排出係数	tCO <sub>2</sub> /GJ	0.0708	J-クレジット制度デフォル ト値	変更なし
$CF_{\text{fuel,PJ}}$	都市ガスの単位発熱量 あたりの炭素排出係数	tCO <sub>2</sub> /GJ	0.0517	J-クレジット制度デフォル ト値	変更なし

## 6 排出削減量の計算

### 6.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
292,040 (Nm <sup>3</sup> )	0.0440(GJ/Nm <sup>3</sup> )	0.0517(tCO <sub>2</sub> /GJ)	
610,547 (Nm <sup>3</sup> )	0.0464(GJ/Nm <sup>3</sup> )		
EM <sub>PJ</sub>			2,129.0 (t-CO <sub>2</sub> )

### 6.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
292,040 (Nm <sup>3</sup> )	0.0440(GJ/Nm <sup>3</sup> )	0.0708(tCO <sub>2</sub> /GJ)	
610,547 (Nm <sup>3</sup> )	0.0464(GJ/Nm <sup>3</sup> )		
88.20 (%)			
90.25 (%)			
EM <sub>BL</sub>			2,849.3 (t-CO <sub>2</sub> )

### 6.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
			0
LE			0

### 6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM <sub>BL</sub>	2,849.3
事業実施後排出量 (7.1)	EM <sub>PJ</sub>	2,129.0
リークージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	720

## 7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン ①	実績 ②	ベースライン －実績 ①－②
1,038.3	0	1,038.3

## 8 再生可能エネルギー利用量

本事業は再生可能エネルギーを利用しない。